

I - 1 図書館のあゆみ 昭和39年(1964)－昭和54年(1979)

昭和39年(1964)10月、有山崧を議長とする社会教育委員会は日野市に図書館を設置するよう答申する。日本図書館協会の事務局長だった有山崧は図書館の設置に向けて、事務局の部下で、前年に刊行された『中小都市における公共図書館の運営』の策定に、事務局担当として深く関わった前川恒雄を特別委員会委員として招く。

昭和40年(1965)6月15日、3月議会に続く再度の市議会審議を経て、漸く日野市立図書館設置条例が議決され、6月20日交付される。ここに正式に日野市立図書館が誕生し、初代館長に前川恒雄が就任する。職員6名。

9月21日、「ひまわり号」と命名された移動図書館車の巡回がスタートする。貸出方式はブラウン方式を採用。当時、図書館界ではほとんど取り入れられていなかったリクエスト制度を設け、利用者からの資料要求に徹底して応えるという基本方針に基づく図書館サービスを展開する。1台で37か所の駐車場を巡回、翌年9月には移動図書館車を増車し駐車場も55か所となる。1駐車場50分、2週間に一度という巡回ながら、当事者たちの不安をよそに、ひまわり号は本を求める子どもから大人まで市民にとってかけがえのない存在となる。貸出冊数は成人(高校生以上)一人4冊、児童一人2冊。

一方、施設面では昭和41年(1966)6月、事務局のあった七生支所2階の高幡図書館、同年8月の都電の廃車を再利用した多摩平児童図書館(通称電車図書館)、昭和42年(1967)7月の福祉センター2階の福祉センター図書館、昭和44年(1969)7月の社会教育センター内の社会教育センター図書館、昭和46年(1971)4月の平山児童図書館、昭和47年(1972)4月の百草台児童図書館と順次開設される。昭和53年(1978)10月には増築改修して床面積を増やした平山図書館が開

館するものの、ほとんどの館が100m²にも満たない小規模施設ながら、60か所を超える移動図書館のサービスポイントと一体となり、全城サービスの実現に向けての確かな拠点となる。

その後、昭和48年(1973)4月には鬼頭梓設計の中央図書館が開館。市立図書館としては異例の2,220m²という延床面積を確保し、1階に一般開架室と児童室、2階にはレファレンス室を設けた開放感に満ちた図書館が誕生する。開館後ほどなくして障害者団体からの要望を受け、同年10月、視覚障害者向けの朗読サービスを開始。さらに翌年からおはなし会も定期的に開催され、児童サービスの充実が図られる。その後の公共図書館建築のモデルともなったこの中央図書館の開館により、日野市における図書館サービス網の初期基盤が形成される。それから2年後に開設10周年を迎えた日野市立図書館の実践は、自治体における図書館政策のモデルとして大きな評価を受ける。

昭和49年(1974)4月には前川恒雄が助役に就任し、後任には文部省図書館職員養成所で同期だった東京農工大学図書館職員砂川雄一が第2代図書館長に就任。図書館システム構築の新たな段階を担うことになる。また、昭和52年(1977)1月から電算化計画がスタートする。バッチ処理でデータもカナデータではあったもののコンピュータが初めて導入され事務処理の向上につながる。同年12月、新庁舎内に地域・行政資料に特化した市政図書室を開設し、市民を初めとして、理事者、市議会議員、市職員に対し、市政運営に関する本格的な資料提供を始める。

設立時6名だった職員も、中央図書館の開館以降、サービスの拡大に伴う増員が認められ、昭和53年(1978)4月には31名となる。

昭和39年(1964)

市内の主な出来事：明星大学開校／京王・多摩動物公園線開通
△国内外の主な出来事：新潟地震／東海道新幹線開業／東京オリンピック大会／佐藤栄作内閣成立

- 10月 有山崧、日野市社会教育委員会議長を委嘱される
日野市社会教育委員会に特別委員会（図書館と公民館についての提言をまとめる）を設置
前川恒雄、特別委員会委員を委嘱される
- 12月 市議会、「図書室設置についての請願」（昭和39年7月21日受付）を採択

昭和40年(1965)

第六小学校開校／第一・第二幼稚園開設／市民プール開設
△東京都議会汚職／日韓基本条約調印／朝永振一郎博士ノーベル物理学賞受賞

- 4月 前川恒雄、教育委員会付で採用される（4.1）
- 6月 「日野市立図書館設置条例」制定（6.20）
☞昭和39年度第4回定例会議（3月20日、第8日目）で、「公民館、図書館、市民会館、福祉センター等を一氣につくりあげようとする構想」（古谷太郎市長発言）の一部として本会議に提出・審議された当初の図書館設置条例案は総務委員会に付託される。その後、修正の上差し替えられた図書館設置条例案が総務委員会を経て、昭和40年度第1回定例会議（6月15日）で再度審議され、一部修正が加えられた上で漸く議決。6月20日の公布をもって正式に日野市立図書館が誕生する。この設置条例とその後作られた規則類は当時としては他に例のないものだった。
- 7月 市民集会場小会議室に事務所（事務局）を置く（7.1）
☞日野第一小学校の旧体育館は当時市民集会場として兼用されていた。その一隅に図書館の事務所が置かれ、2か月後に七生支所内に移転するまで使用される。
- 前川恒雄、初代図書館長に就任（～昭和49年4月）（7.1）
職員数6名。
- 資料管理内規、正式裁可（7.4）
- 8月 第1回子ども会（大坂上集会場）（8.5）
- 有山崧、第2代日野市長に就任（～昭和44年3月）
☞初代日野市長古谷太郎が都議会議員となつたため、急遽有山崧が市長選に立候補し当選。昭和44年（1969）3月16日に急逝するまでの約3年半、日野市の発展に貢献する。
- むらさき号（都立八王子図書館）利用読書グループ責任者・駐車場主任合同協議会（市民集会場）（8.13）
- 移動図書館車納車（8.28）
- 9月 事務所、七生支所内に移転（9.1）
移動図書館「ひまわり号」命名式（市民集会場前）（9.13）
☞社会教育委員会に諮ったところ、図書館の熱心な支持者だった婦人会長から「毎日、日野を回るのだから、ひまわり号はどうかしら」との提案がある。花の名前でもありこれがいいということになり「ひまわり号」と命名する。



有山崧市長（前列左）と
永野林弘教育長（右端）



命名式（市民集会場前）

ひまわり号巡回説明会及び講演会「移動図書館奉仕のあり方」埼玉県立図書館奉仕課長
鈴木四郎氏（市民集会場）（9. 13）

「日野市立図書館運営規則」「日野市立図書館処務規則」制定（9. 15）
移動図書館による貸出業務開始（9. 21）

☞七生支所を出発し、途中高幡不動尊に参詣した後、最初の巡回先、若宮町（現川原付市営住宅）へ向かう。残念ながら利用はなかったが、次の堀之内青年研修所で初めて貸し出す。火曜から金曜日（振替は土曜日）、午前10時から1駐車場50分の駐車時間で、2週間ごとに37か所を巡回する。



堀之内青年研修所 昭和40年代初頭

10月 「日野市立図書館協議会設置条例」制定（10. 15）

☞図書館の運営に関して、館長の諮問に応じるとともに意見を述べる場として開設当初より図書館協議会を設置する。メンバーは市議、有識者、市民などからなる。初代の委員長は古谷栄元都議。同氏は有山崧市長急逝の後、第3代日野市長に就任する。

11月 駐車場主任会議（市民集会場）（11. 1）

「日野市民の読書実態に関する調査」（中央大学社会心理研究会協力）（11. 7～9）

講演会「生活の中の読書」評論家 石垣綾子氏（市民集会場）（11. 11）

児童図書原画点（市民集会場）（11. 11）

緑ヶ丘こども図書館開館式（緑ヶ丘クラブ、配本所）（11. 14）

「日野市立図書館協議会運営規則」制定（11. 20）

昭和41年（1966）

多摩平出張所、支所に昇格／中央公民館・中央福祉センター開設／都立日野高校開校
△羽田沖で全日空727機墜落、航空機事故相次ぐ／国会の“黒い霧”事件

2月 移動図書館の巡回に際し、テーマ・ソングとして「ぼくの伯父さん」（ジャック・タチ監督・主演映画主題歌）を流し始める（2. 10）

3月 学校への配本開始（第六小学校）（3. 22）

有山崧市長、日本図書館協会事務局長を辞任（3. 31）

5月 初代図書館協議会委員長に古谷栄氏就任（～昭和44年4月）（5. 26）

6月 高幡図書館開館（七生支所2階、延床面積82.5m²、

蔵書数：5,000冊（内児童書2,000冊）、雑誌43種、

月～金曜日：午前8時30分～午後5時、土曜日

<昭和43年7月まで>：午前8時30分～12時）

（6. 28）

7月 図書館協議会開催（初回、中央公民館視聴覚室）

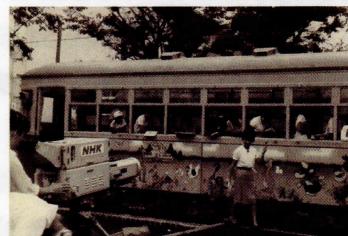
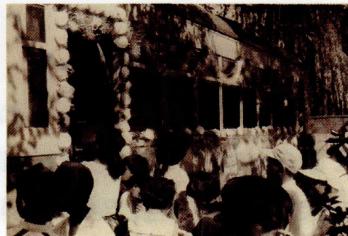
（7. 27）

移動図書館車2号車納車（7. 27）



8月 多摩平児童（電車）図書館開館（延床面積 19.8 m²、蔵書数 6,000 冊、月～金曜日：午後 1 時～5 時）(8. 24)

都電の払い下げを受け、住宅公団多摩平団地内的一角に電車図書館として誕生。多摩平団地南集会場で行われた開館式では、やなせたかし氏の講演会を開催。夏や冬など館（車）内の環境は厳しかったが、近隣の子どもたちにとってオアシスのような存在だった。後に『ふたごのでんしゃ』（渡辺茂男作 堀内誠一絵 あかね書房 1969年）のモデルともなる。



やなせたかし氏講演会

NHKテレビ「スタジオ102」で紹介(9. 12)

9月 移動図書館車 2号車（内架式書架）巡回開始、55駐車場 (9. 12)

駐車場を増設するため2台目のひまわり号が導入される。場所によっては2台で貸出を行う。内架式書架の移動図書館はこの1台のみで、その後はすべて内外架式書架を採用。



10月 事務所を多摩平支所 2階に移転 (10. 22)

事務所を七生支所内から多摩平団地内の多摩平支所 2階に移転。昭和 48 年 (1973) 4 月、中央図書館が開館するまでの 6 年半ここに置かれる。

11月 『新しい本』(成人・児童図書混載) 発行・配布開始

(11. 19)

講演会「女のくらし」作家 三宅艶子氏（第一中学
校特別教室）(11. 19)

『利用の手引き』完成 (11. 26)



昭和42年(1967)

中央自動車道「調布一八王子」間開通
◇美濃部亮吉氏、東京都知事当選／欧州共同体(EC)成立／公害対策基本法公布／
東南アジア諸国連合(ASEAN)結成

1月 藏書点検(初年度)(1.5~9)

『新しい本』(成人図書限定)発行

日野市図書館協会設立、記念講演「現代社会と図書館」

国立国会図書館整理部長 小田泰正氏(1.28)

2月 講演会、慶應大学助教授 渡辺茂男氏(第一幼稚園)(2.23)

3月 『あたらしい本』(児童図書限定)発行

『業務報告 昭和40・41年度』刊行(B6判)



日野市立図書館はそれまでとは違った方法で運営されたが、それがどういう考え方に基づいているかを正しく理解してもらうために、設立から2年間の実践を詳細に記録したこの業務報告は図書館界で大きな反響を呼んだ。後に昭和58年(1983)9月に日本図書館協会から復刻版が刊行される。

「日野市立図書館視聴覚ライブラリー運営規則」制定、日野市立図書館視聴覚ライブラリー発足(3.9)



5月 藏書目録、第一巻作成

6月 高幡図書館、紙芝居貸出開始(6.8)

講演会「子供の本の選び方」慶應大学助教授 渡辺茂男氏(第五小学校)(6.17)

講演会「子供の本の与え方」慶應大学助教授 渡辺茂男氏(中央公民館)(6.24)

利用者懇談会(～8月、全11回、多摩平地区他)(6.29～8.22)



渡辺茂男氏講演会

7月 福祉センター図書館開館(火～金・日曜日：午後1時30分～5時)(7.2)

アメリカ議会図書館児童図書部長 ヴァージニア・ハヴィランド氏、石井桃子氏・松岡享子氏・渡辺茂男氏等と、視察のため多摩平児童(電車)図書館に来館(7.4)



福祉センター図書館 昭和44年撮影

NHK「カメラリポート」で多摩平児童図書館を紹介(7.25)

8月 貸出文庫(団体貸出)開始(8.24)

9月 利用者連絡紙『ひろば』創刊(昭和45年3月の9号まで発行)(9.18)

10月 駐車場主任総会(有山崧市長講演他、中央公民館)(10.20)

11月 NHK教育テレビ「教養特集 図書館文化」に前川恒雄館長出演(11.7)

12月 ユネスコ出版技術研修生一行来館(初回)(12.15)

日本の出版界の協力を得て開催されているユネスコ出版技術研修コースで、これ以降、昭和44年から46年、50年、54年と6回、日野市立図書館を訪れている。



昭和45年撮影

昭和43年(1968)

基本的総合計画策定／日野郵便局舎完成
△小笠原諸島、日本復帰／日本初の心臓移植／メキシコ・オリンピック／3億円強奪事件／
川端康成氏ノーベル文学賞受賞

5月 第1回児童奉仕員任命式(福祉センター) (5. 5)

☞小学校3年生から中学生を対象にした児童奉仕員制度を取り入れる。本の整理や貸出の手伝いなどのほか、時には町を出てピクニックに出かけることもあった。

9月 NHKテレビ、取材のため来館(多摩平239号館にて映画評論家佐藤忠男氏のインタビュー、19日「こんにちは奥さん」で放映) (9. 13)

利用者懇談会(～10月、全13回、高幡図書館他) (9. 16～10. 2)

10月 「図書館友の会」発会式、記念講演会「名作の中の女性像」

武蔵野美術大学講師 楠本憲吉氏(中央公民館)
(10. 17)

☞図書館利用者により友の会が結成され、文学散歩や実践女子大学との共催で講演会等を開催する。
事務局は図書館内に置かれる。

講演会「家庭における子どもの読書」早稲田大学助教授
鳥越信氏(第五小学校体育館) (10. 27)



図書館友の会発会式
楠本憲吉氏記念講演会

昭和44年(1969)

第八小学校開校／日野保健所開設
△東名高速道路開通／人類初の月面着陸／大学運営臨時措置法案強行採決／交通事故死史上最高

3月 有山崧日野市長逝去 (3. 16)

講演会「新しい図書館活動」流通経済大学図書館司書長 森博氏(福祉センター) (3. 19)

4月 第3代日野市長に古谷栄就任(～昭和48年4月) (4. 27)

7月 社会教育センター図書館開館(延床面積66m²、火～金・日曜日：午前10時～午後5時) (7. 16)

☞社会教育センターは有山崧市長が社会教育の推進を図って誘致したもので、日野市と社会教育協会が共同で運営する市民の社会教育機関となる。同センター1階の一室に図書館が開設され、平成12年(2000)1月末閉館するまで、多摩平・日野台地区の重要なサービスポイントとなる。



社会教育センター図書館

日本女子大学第6代学長 上代タノ先生を囲んでの座談会(社会教育センター) (7. 21)

図書館友の会総会、記念講演「東西雑感」文化庁長官 今日出海氏(社会教育センター)
(7. 28)

9月 第2代図書館協議会委員長に秋山祐雅氏(高幡不動尊貫主)就任(～昭和53年4月) (9. 11)

11月 図書館協議会委員と古谷栄市長の懇談会(福祉センター) (11. 27)

日野市図書館協会研修会「雑誌の受入について」今まど子氏(多摩平地区センター) (11. 27)

第1回実践女子大学公開講座(実践女子大学・図書館友の会共催、～12月、実践女子大学日野校舎)：「源氏物語の女性」実践女子大教授 三谷栄一氏(11. 29)「明治の女性の生き方」実践女子大教授 塩田良平氏(12. 6)「自己表現の道」実践女子大教授 木俣修氏(12. 13)

図書館協力事業開始

あざみグループ読書会や子どもの本を読む会への協力事業（読書会資料の提供等）が

始まる。翌年度からは戦争児童文学を読む会や万葉集を読む会等他団体にも広がる。

前川恒雄館長、東京都公立図書館振興プロジェクトチームメンバーに就任（～翌年4月、

『図書館政策の課題と対策』昭和45年4月策定）

12月 貸出券様式変更（3年間有効にするため枠追加）（12. 11）

昭和45年（1970）

百草台小学校・第三中学校開校／市の人口10万人突破／カドミウム汚染米検出
◇日本万国博覧会／日航「よど号」事件／全国に公害続発

3月 『有山崧著作集1・2・3』（前川恒雄編 日本図書館協会）刊行

戦後日本の図書館界の発展に大きく寄与した有山崧が記した論文・著作等を全3巻に編纂した著作集。

講演会「子どもと読書」慶應大学教授 渡辺茂男氏
(福祉センター中央会館2階集会室) (3. 20)



4月 図書館資料の購入契約については財務課で行わず、図書館独自で
契約可能となる

図書館長に資料の購入決裁権が認められる。

都立日比谷図書館新任職員研修生受入 (4. 6～11)

東京都『図書館政策の課題と対策』策定

都内の図書館発展に大きな役割を果たすとともに、他県にも影響を与える。この施策
策定にプロジェクト委員として前川恒雄館長が深くかかわる。

5月 『市民の図書館』（日本図書館協会編 日本図書館協会）刊行

日野市立図書館の実践に基づく公共図書館論を提示。「貸出」「児童奉仕」「全城サービス」の三つを図書館サービスの最重点目標として位置づける。中央区立京橋図書館長清水正三のまとめた児童サービスの項を除き、前川恒雄館長が執筆する。
その後の全国の公立図書館の発展に大きな影響を与える1冊となる。



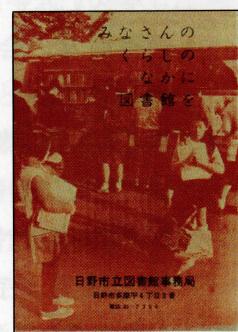
6月 「利用の手引き」改訂版完成 (6. 8)

第2回実践女子大学公開講座（実践女子大学・図書館友の会共催、
～7月、実践女子大学日野校舎）：「源氏物語・光源氏の一生」
実践女子大教授 三谷栄一氏 (6. 27/7. 1/7. 6)

9月 都立日比谷図書館巡回車、連絡及び特別貸出等のため来館
(9. 25)

10月 古谷栄市長と図書館協議会委員の懇談会 (10. 16)

講演会「子どもと図書館の昔と今」児童図書館研究会会长
小河内芳子氏（社会教育センター）(10. 30)



昭和46年(1971)

滝合小学校開校／ひらやま児童館開設／ヒノクジラの化石発見／第一次基本構想制定
△沖縄返還協定調印／全日空機と自衛隊機空中衝突／ドル・ショック

3月 NHKテレビ「カメラリポート」で「消え行く都電の第二の活躍(仮題)」を放映(3.15)

講演会「子どもの本と世界」児童図書館研究会会長 小河内芳子氏
(福祉センター中央会館)(3.30)

4月 平山児童図書館開館(ひらやま児童館2階、臨時職員で対応、

火～金・日曜日：午後1時～5時)(4.6)

多摩平児童(電車)図書館お別れ会(4.10)

新多摩平児童図書館開館(設計：横浜国立大学建築学科

佐藤仁・山田弘康・宮下博文、延床面積105.63m²、月～

金曜日：午後1時30分～5時)(4.10)



平山児童図書館

☞痛みが激しい電車図書館の建替を古谷栄市長に訴えたある少女の願いが叶って建設に至る。多摩平団地内に誕生した独立した児童図書館の存在は子どもたちから歓迎される。



新多摩平図書館開館式での古谷栄市長
(前列右から4人目)



10月 前川恒雄館長、文部省社会教育審議会委員を委嘱される(～翌年10月、『公立図書館の設置および運営に関する望ましい基準案』昭和47年9月発表)(10.11)

☞施設分科会の一つとして図書館専門委員会が発足し、前川恒雄館長も審議会委員として「望ましい基準案」作りに加わる。しかしまとめられた「望ましい基準案」は社会教育審議会施設分科会で承認されたものの、告示までには至らない。

第3回実践女子大学公開講座(実践女子大学・図書館友の会共催、実践女子大学日野校舎)：

「万葉集の相聞と婚姻」実践女子大教授 三谷栄一氏(10.18)

「絵本のはなし」実践女子大教授 那須辰三氏(10.22)

「現代人と論語」実践女子大教授 阿部吉雄氏(10.25)

「荒地という詩にあらわれた戦後の世相について」実践女子大教授 桂田利吉氏(10.29)

11月 古谷栄市長名で大蔵政務次官他各担当官宛に、「昭和47年度図書館の振興に関する国の予算の増額について」陳情書を提出(11.1)

昭和47年(1972)

高幡台小学校開校／都立工科短期大学開校
◇札幌オリンピック冬季大会／浅間山荘事件／沖縄県本土復帰／ミュンヘンオリンピック大会／
日中國交正常化

4月 百草台児童図書館開館（臨時職員で対応、火～金・日曜日：午後1時30分～5時）(4.5)

社会教育課より視聴覚業務引継(4.28)

『日野市の図書館設置計画に関する調査研究1972』(日本図書館協会)

刊行(A4判)

☞大阪市立大学の栗原嘉一郎教授を中心とするメンバーによる科学的調査に基づいて提示された図書館設置計画はその後の日野市の図書館設置計画に活用される。

フォトチャージ貸出方式試行(～5月、社会教育センター図書館)

5月 図書館友の会総会、講演会「短歌のこころ」早稲田大学教授 窪田章一郎氏

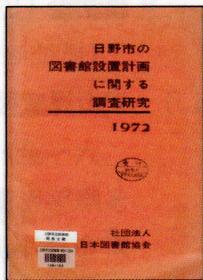
(福祉センター)(5.25)

6月 矢野有奉(やの ゆうぶん)仕係長、昭島市民図書館開設準備室長に就任(6.16)

10月 鈴木喜久一元副館長、東村山市立図書館建設担当主幹に就任(10.1)

11月 16ミリ映写機操作講習会(初年度、社会教育センター)(11.12～16)

☞図書館主催でこれ以降平成14年(2002)まで毎年開催され操作技術者を養成する。



昭和48年(1973)

第七小学校・第四中学校開校／
市制施行10周年記念として、市の木「かし」、市の花「きく」を制定
◇都立中央図書館開館／石油危機／江崎玲於奈博士ノーベル物理学賞受賞

3月 「日野市立図書館運営規則」及び「日野市立図書館処務規則」一部改正(3.27)

☞業務係を新設、庶務係を庶務整理係に、学齢以下の者が登録可能に、貸出冊数を児童・成人すべて4冊に変更される。

児童用、図書館利用案内「こどものとしょかん」発行

(表紙絵『わたしほんがよめるの』<ディック・ブルーナ作・絵 福音館書店>より)



4月 高幡図書館、日曜日開館開始(火～金・日曜日：午後1時30分～午後5時)

(4.1)

第4代日野市長に森田喜美男就任(～平成9年4月)(4.27)

中央図書館開館(鬼頭梓建築設計事務所設計、用地は借地<若宮神社>)、

延床面積2,220m²、火～金・日曜日：午前10時～午後5時、土曜日：午前10時～12時)
(4.28)

☞中央図書館が開館。設計は鬼頭梓。「時間が経てば経つほど、美しさと味わいを増すような図書館」をめざしたという建築家鬼頭梓と図書館人前川恒雄の度重なる議論はまさに真剣勝負そのものだった。このとき図書館側から示された建築計画書は各地の図書館建築に大きな影響を与えるとともに、完成した中央図書館はその後の公共図書館建築のモデルとなる。なお、4月5日の落成式時点では古谷栄市長だったが、その後の市長選を経て、開館式には森田喜美男第4代市長の出席となる。



落成式で挨拶する古谷栄市長



正面玄関



開館式で挨拶する森田喜美男新市長



正面玄関前 *3

レコード貸出開始 (4. 28)

5月 紙芝居配架 (5. 16)

図書館報『ひろば』創刊号 (昭和 48 年 5 月) 発行 (表紙絵

松本キミ子氏) : 「ひろげよう『ひろば』の輪を !! /

『くたばれ中央館』? / 図書館にも託児室を !! / 中央館案内

レファレンスサービス / わたしととしょかん 小 2 宮脇由佳」

6月 森田喜美男市長、身体障害者団体との対話集会で視覚障害者に対する図書館サービスの要望を受ける (社会教育センター) (6. 29)

9月 16 ミリ映写機検定 (初年度、中央図書館) (9. 17)

10月 朗読サービス (図書館利用に障害のある人々へのサービス)

開始 (10. 1)

☞ 視覚障害者からの要望を受け朗読サービスが開始される。後に点訳グループ六点の会の協力により点訳サービスも始まる。

『図書館の発見ー市民の新しい権利』(石井敦・前川恒雄
共著 日本放送出版協会 NHK ブックス 194) 刊行

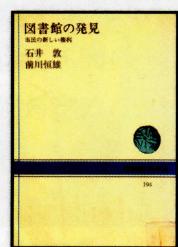
☞ 平成 18 年 (2006) 1 月、旧版を全面改稿した新版が刊行される。

11月 第 1 回子どもの本を読む会 (高幡図書館) (11. 16)

☞ 子どもの本について自主的に学ぶ市民グループ「子どもの本を読む会」が誕生。当初より職員を派遣し共に学びを深める。



対面朗読 平成 7 年撮影



昭和49年(1974)

南平小学校開校／市営水道事業が東京都に統合／日野市土地開発公社設立
◇三菱重工業本社爆発事件／佐藤栄作前首相ノーベル賞受賞

3月 おはなし会を定期的に開催 (3. 6)

☞中央館集会室（現障害者サービス室）で
第1・第3水曜日、午後3時から定期的に
おはなし会を開催するようになる。

講演会「明治の日野一旧甲州街道こぼれ話」

日野史談会 古谷梅雄氏 (3. 22)

4月 前川恒雄館長、助役に就任 (4. 13)

☞森田喜美男新市長の指名を受け、1年間
空席だった助役に、急遽、前川恒雄館長
が就任することになる。



昭和 54 年撮影

「日野市立図書館コピーサービス実施要綱」制定 (4. 17)

第2代図書館長に東京農工大図書館職員の砂川雄一が就任 (～昭和 62 年 4 月) (4. 25)

☞大学図書館からの転身であった砂川雄一は自らも移動図書館車を運転し巡回に臨んだ。
砂川の下、図書館サービス網の拡充に向けて取り組むとともに、資料管理を目的とした電算システムの活用に向けた準備が始まる。

8月 森田喜美男市長との懇談会 (8. 15)

9月 講演会「子どもと図書館」慶應大学教授 渡辺茂男氏 (七生農協) (9. 14)

砂川雄一館長、公共図書館システム調査のため米国へ (9. 29 ～ 10. 20)

10月 国立国会図書館研修生 3 名研修 (初回) (10. 2)

11月 三笠宮崇仁殿下来館 (11. 5)

12月 児童奉仕グループミーティング (初回) (12. 24)

☞児童奉仕担当者による定期的なミーティングが始まる。

昭和50年(1975)

湯沢福祉センター開設

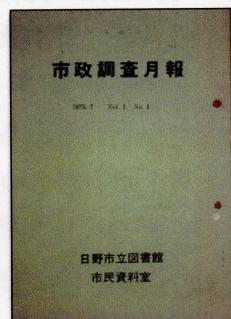
◇山陽新幹線岡山博多間開通／ベトナム和平／沖縄国際海洋博／天皇皇后両陛下訪米／
第1回先進国首脳会議（サミット）

1月 東京 12 チャンネル、撮影のため来館 (2月 9 日「東京レポート」で「暮らしの中の図書館」
を放映) (1. 14)

5月 平山児童図書館開館日変更 (月～金曜日：午後 1 時 30 分～5 時)

7月 『市政調査月報』創刊 (B5 判)

☞市政に関する情報提供の一環として、関連雑誌の最新号
目次をまとめた『市政調査月報』が創刊され、庁内部署への
配布が始まる。その後、昭和 52 年 (1977) 12 月に開館
した市政図書室に引き継がれ現在に至る。



昭和51年(1976)

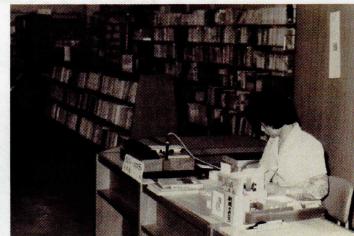
清流条例「公共水域の流水の浄化に関する条例」施行
△モントリオールオリンピック大会／ロッキー事件で田中角栄前首相逮捕

- 2月 貸出待ち時間調査（中央図書館、8ミリフィルム撮影）(2. 1)
対面朗読勉強会「発音・发声について」樋村治子氏（朗読者講習会として初回）(2. 23)
- 3月 「ちいさなみなさんのおはなし教室」（多摩平団地中央集会所）(3. 25)
- 6月 子どもの本を読む会と森田喜美男市長の話し合い（初回、高幡図書館）(6. 25)
所蔵資料にバーコード貼付開始（～9月）
- 10月 元英國児童図書館員アイリーン・コルウェル女史、石井桃子氏・松岡享子氏・渡辺茂男氏等と視察のため来館(10. 12)
- 12月 おはなし会、この日をもって昭和53年(1978)3月8日まで中断(12. 22)

昭和52年(1977)

旭が丘小学校・程久保小学校・三沢中学校開校／市役所庁舎新築・移転／緑化推進基本計画策定
△青酸コーラ事件／有珠山爆発／日航機ハイジャック事件

- 1月 第1期電算化計画スタート（中央・高幡・日野・社会教育センター図書館、リコー RICOM3200）
(1. 11)
☞バッチ処理でデータもカナデータながら、貸出・返却・予約・督促が機械化されたことにより、これまでのブラウン方式とは異なり処理方法を一変させる。
- 4月 平山図書館開館（旧平山児童図書館1階部分、正規職員で対応、月～金曜日：午後1時30分～5時）(4. 4)
- 7月 平山図書館、日曜日開館開始（火～金・日曜日：午後1時30分～5時）(7. 17)



平山図書館

- 8月 図書館報『ひろば』15号発行、表紙絵、松本キミ子氏から
岩崎輝寿氏に交代
- 10月 東京都公立図書館図書館利用に障害のある人々へのサービス研究会（略称「障害者サービス研究会」）事務局となる(10. 12)
☞この後代々の担当者が、平成17年(2005)3月に東京都公立図書館長協議会が解散するまで足掛け28年間事務局を担う。
- 12月 市政図書室開館（延床面積140m²、月～金曜日：
午前9時～午後5時、土曜日：午前9時～12時)
(12. 1)
☞地域・行政資料に特化した市政図書室を新庁舎の一角に開設。市民を初め、理事者、議員、市役所職員に対する資料提供が本格的に始まる。



市政図書室

昭和53年(1978)

平山台小学校開校／市民と市長の対話集会スタート／日野市住みよいまちづくり指導要綱施行
△新東京国際空港(成田空港)開港／日中平和友好条約調印

2月 『新聞記事速報』創刊(市政図書室 B4判)(2.24)

☞日野市に関する新聞記事を収集・編集、月曜日から金曜日まで毎日発行し、庁内に配布を開始。

3月 おはなし会を開催(第2・4水曜日、2グレード:4才～小学校1年生、小学校2年生以上)(3.8)

4月 都立八王子図書館協力車、月2回火曜日巡回開始

5月 第3代図書館協議会委員長に大下博氏就任(～昭和63年4月)(5.19)

9月 市政図書室、住民運動グループの会報、機関誌、自治会、町内会報、ローカル新聞、学校新聞等のミニコミ誌等の収集開始。



『日野市立図書館調査報告書』(図書館問題研究会東京支部)刊行

☞設立10周年を経た日野市立図書館の組織・運営全般についての悉皆調査に基づく報告書。

10月 平山図書館、増築して開館(延床面積536m² < 1階344m²、2階192m²:保存スペース> 火～金・日曜日:午後1時～5時)(10.29)

☞児童館の移転により図書館単独の施設となったため、増築工事により成人スペースを確保し、平山地区への本格的なサービスを開始する。



増築後の平山図書館

11月 映画『図書館とこどもたち』(日本図書館協会企画／制作、わかば社製作協力、16ミリ)制作のための初打ち合わせ(11.13)

☞国際児童年を記念して企画されたもので、日野市立図書館における児童サービスの実践を映像化している。撮影は11月16日に開催された第19回児童奉仕全国研究大会の様子の撮影に始まり、翌年2月中旬まで行われ、同年10月に開催された図書館大会問題別第6分科会「児童・青少年の読書と図書館利用」で上映されている。

児童用、新図書館利用案内「ひのりとしょかん」発行

(表紙絵『ようちえん』<ディック・ブルーナ作・絵
福音館書店>より)(11.29)



『資料の広場』創刊（市政図書室 B5判）

☞創刊号・2号が手書き。3・4号が活字。5号から再度手書きになり、35号以降正式に活字となる。主に市政図書室に入った地域・行政資料を紹介するための月刊発行の資料リスト。

12月 郷土かるた公募（～翌年1月）(12.15～1.20)



昭和54年（1979）

東光寺小学校開校／休日準夜診療所開設／高齢者事業団（現シルバー人材センター）発足／南平体育馆開設／七生支所移転（公会堂併設）
△スリーマイル島原発事故／元号法公布／東京サミット

- 2月 TBSテレビ「まんがはじめて物語ー本のことならまかしとけ！図書館」（中央図書館で撮影協力）を放映（2.17）
- 3月 講演会「絵本と子ども」東京子ども図書館 佐々梨代子氏（高幡地区センター）(3.7/8)
- 4月 市政図書室、市の有償刊行物を頒布開始（4.2）
おはなし会、3グレード編成に（幼児4才以上：3時～、1・2年生：3時30分～、3年生以上：4時～）(4.11)
- 5月 「日野市立図書館登録者に関する調査」（館内登録分布調査グループ）実施
☞登録者の地域別分布を調査することにより図書館サービス網構築の基礎データとする。
- 9月 市議会、「日野第三小学校区内（新設「東光寺小」学区を含む）へ児童文化施設を建設する件についての請願」（昭和54年3月12日受付）を採択（9.19）
- 10月 テレビ朝日、取材のため多摩平児童図書館に来館（22日「東京のこだま」で放映）(10.2/5)
- 11月 NHKラジオ第1放送「くらしのカレンダー」で「図書館活用法」を放送（11.5）
講演会「子どもと読書」東京子ども図書館 佐々梨代子氏（明治生命豊田営業所）(11.8/12)
- 12月 『日野郷土かるた』完成（4,900部）、小学校6年生児童に配布（2,600部）、市民に販売開始（12.20）
☞「ひまわり号みんなの夢をはこぶバス」と、郷土の誇りとしてひまわり号も登場。

